



儒教のかたち ^{かがみ} ころの鑑 日本美術に見る儒教

会期 | 2024年11月27日(水)～2025年1月26日(日)



Webブラウザ上で正常に表示されない場合は、Adobe Acrobat Readerでご覧ください。

サントリー美術館(東京・六本木/館長:鳥井信吾)は、2024年11月27日(水)から2025年1月26日(日)まで「儒教のかたち ころの鑑—日本美術に見る儒教—」を開催いたします。

儒教は、紀元前6世紀の中国で孔子(前552/551～前479)が唱えた教説と、その後継者たちの解釈を指す倫理思想です。孔子が唱えた思想とは、五常(仁・義・礼・智・信)による道德観を修得・実践して聖人に近づくことが目標であり、徳をもって世を治める人間像を理想としています。このような思想は、仏教よりも早く4世紀には日本へ伝来したといわれ、古代の宮廷で、為政者のあるべき姿を学ぶための学問として享受されました。

中世になると、宋から新たに朱子学(南宋の朱熹が確立させた新しい儒教思想)が日本へ伝わり、禅僧たちがそれを熱心に学んだことから、儒教は禅宗寺院でも重要視されました。そして近世以降、文治政治を旨とする江戸幕府は、儒教を積極的に奨励し、その拠点として湯島聖堂を整備します。江戸時代を通じ日本各地で、身分を問わず武家から民衆、子どもに至るまで、その教育に儒教が採用され、広く浸透していったのです。

例えば、理想の君主像を表し為政者の空間を飾った、大画面の「帝鑑図」や「二十四孝図」が制作された一方で、庶民が手にした浮世絵や身の回りの工芸品の文様にも同じ思想が息づいています。それらの作品には、当時の人々が求めた心の理想、すなわち鑑となる思想が示されており、現代の私たちにとっても新鮮な気づきをもたらしてくれます。本展が、『論語』にある「温故知新」(ふるきをたづねて新しきを知る)のように、日本美術の名品に宿る豊かなメッセージに思いを馳せる機会となれば幸いです。

展示構成

※展覧会会場では、章と作品の順番が前後する場合があります

第1章 君主の学問



重要文化財 賢聖障子絵 狩野孝信 二十面のうち 慶長19年(1614) 仁和寺 【通期展示・面替えあり】

『古事記』によれば、4世紀初頭には大陸から日本に、儒教經典の1つである『論語』が伝わったとされています。以来、天皇や公家・武家など、政治を司る者は、中国から流入してきた儒教經典に高い関心を寄せ、「理想の世をつくる為政者の心構え」を学ぶため、常に座右に置いてきました。

このような背景から、為政者の空間である宮殿や城郭の室内は、儒教思想をもとに中国で成立した画題で飾られることが多くみられました。それらは「善を勧め悪を戒める」意味を持って制作されたことから、「勸戒画」とも呼ばれます。

勸戒画の代表的な例として、平安時代以来、内裏で最も格式の高い紫宸殿ししんでんにおいて天皇の玉座たかみくらの背後を飾る「賢聖障子けんじょうのそうじ」(32人の中国古代の賢臣の姿を描く)があり、さらに、親孝行などの優れた行いをした24人の中国古代の人物を描く画題である「二十四孝図」も挙げられます。京都・南禅寺で大切にされてきた《二十四孝図襖》は、元来、天正14年(1586)に正親町院仙洞おおぎまちいんせんとう御所の対面所に描かれた勸戒画でした。そして中国・明の時代に編纂された『帝鑑図説』をもとにした画題である「帝鑑図」も、中国歴代皇帝の鑑とすべき善行と戒めとすべき悪行を描く勸戒画です。これらの画題はいずれも、為政者と関係の深い、狩野派をはじめとする当代きっての絵師たちが制作を担当してきたのです。

この章では、中国から伝来した儒教美術や、それらに影響を受けて成立した天皇や将軍の居室内を飾った大画面の勸戒画を中心に、君主の学問と心得を示す名品群を一堂にお楽しみいただきます。



重要文化財 二十四孝図襖 伝 狩野永徳 十四面のうち 天正14年(1586) 南禅寺 【通期展示・面替えあり】



重要文化財 名古屋城本丸御殿上洛殿襖絵 帝鑑図 露台借費 狩野探幽 四枚四面 寛永11年(1634)
名古屋城総合事務所 【展示期間:12/25～1/26】

主な出品作品

- ・孔子像 伝 戴進^{たいしん} 一幅 中国・明時代 15～17世紀 公益財団法人斯文会
- ・重要文化財 『論語集解』^{しつがい} 十冊のうち 元応2年(1320) 名古屋市蓬左文庫
- ・重要文化財 賢聖障子絵 狩野孝信
二十面のうち八面 慶長19年(1614) 仁和寺
- ・重要文化財 二十四孝図襖 伝 狩野永徳
十四面のうち八面 天正14年(1586) 南禅寺
- ・重要文化財 名古屋城本丸御殿上洛殿襖絵 帝鑑図^{ろだいせきひ} 露台借費^{めいべんきしよ}／明弁詐書
狩野探幽 四枚八面 寛永11年(1634) 名古屋城総合事務所

第2章 禅僧と儒教

13世紀以降の為政者たちと儒教の深い関係の裏側には、彼らのブレンとなって活躍した禅僧たちの存在がありました。同時期の禅僧たちは、中国から持ち込まれた当時最新の禅の思想だけでなく、宋学(宋代に生まれた新潮流の儒学)の知識全般に高い関心を持っていました。その中には、朱子学や、「儒教、仏教、道教の根源は同じ」とする三教一致思想なども含まれていました。中国の最新の学問に通じようとした禅僧たちは、それらを熱心に学び、その著作や絵画などにおいて、存分に成果を発揮しています。本章では、雪村周継の《孔子観欵器図》(大和文華館蔵)など、禅僧たちの儒教学習の成果が現われた名品を通して、中世の禅僧と儒教の関係に注目します。

また、中世に成立し、日本最古の学校として栄えた足利学校(現在の栃木県足利市に所在)では、歴代の校長(庠主)を禅僧が務め、儒教学習の拠点として、戦国大名からも広く尊敬を集めました。本章では、上杉憲実寄進の国宝『尚書正義』をはじめとする南宋時代の貴重な儒教經典や、慶長5年(1600)に徳川家康(1542～1616)が足利学校第九世庠主・閑室元佶(1548～1612)に命じて刊行させた『貞観政要』などの版本、室町時代の天文4年(1535)につくられ、足利学校でまつられてきた国内現存最古の彫刻による孔子像など、貴重な品々も多数ご紹介します。



栃木県指定文化財 孔子坐像
一軀 天文4年(1535)
史跡足利学校事務所 【通期展示】



孔子観欵器図 雪村周継 一幅 室町時代 16世紀 大和文華館
【展示期間:12/25～1/26】

主な出品作品

- ・国宝 『尚書正義』
二十卷八冊のうち 中国・南宋時代 12世紀 史跡足利学校事務所
- ・栃木県指定文化財 孔子坐像 一軀 天文4年(1535) 史跡足利学校事務所
- ・足利市指定文化財 『貞観政要』
十卷八冊のうち 慶長5年(1600) 史跡足利学校事務所
- ・孔子観欵器図 雪村周継 一幅 室町時代 16世紀 大和文華館
- ・三教図扇面 「方外」印 一幅 室町時代 15～16世紀 神奈川県立歴史博物館

第3章 江戸幕府の思想

江戸時代の幕が開けると、儒教受容のあり方は大きく変化します。江戸幕府は禅宗寺院出身の藤原惺窩(1561～1619)や林羅山(1583～1657)といった儒学者たちを重用し、支配者階級である武士から民衆に至るまでの全ての層に、朱子学を学ぶことを奨励します。幕府の中核で活躍した狩野探幽をはじめとする狩野派の絵師たちは、このような幕府の姿勢を反映し、多くの名品を生み出しました。例えば鳳凰は、儒教における優れた君主の出現を意味する象徴として、狩野派の絵師たちによって繰り返し描かれ、探幽以降の歴代狩野派絵師の作品や多くの工芸作品にみられるようになります。



聖像(帝堯像・文宣王(孔子)像・禹王像・周公旦像・帝舜像)・牡丹蒔絵祠堂形厨子 五体・一基
江戸時代 17世紀 徳川美術館 【通期展示】

また、寛永9年(1632)に林羅山が上野・忍ヶ岡の私邸内に孔子廟を作り、徳川義直がそれを支援します。元禄3年(1690)になって、孔子廟は第五代将軍・徳川綱吉によって湯島に移され、翌年、現在の湯島聖堂が建立されました。本章では湯島聖堂の歴史を物語る貴重な絵画や工芸も合わせてご観いただきます。



桐鳳凰図屏風 狩野探幽 六曲一双 江戸時代 17世紀 サントリー美術館 【展示期間:12/25～1/26】

主な出品作品

- ・ 楽器図(名古屋城二之丸御殿楽器之間衝立画)
二枚 江戸時代 17世紀 徳川美術館
- ・ 桐鳳凰図屏風 狩野探幽 六曲一双 江戸時代 17世紀 サントリー美術館
- ・ 聖像(帝堯像・文宣王(孔子)像・禹王像・周公旦像・帝舜像)・牡丹蒔絵祠堂形厨子
五体・一基 江戸時代 17世紀 徳川美術館
- ・ 藤原惺窩閑居図 狩野山雪画 堀杏庵・林羅山賛
一幅 寛永16年(1639) 根津美術館
- ・ 聖堂之画図 菱川師宣 一幅 元禄4年(1691) 公益財団法人斯文会

第4章 儒学の浸透

江戸時代も後半になると、儒学者による講義から子ども向けの教育に至るまで、儒教を学ぶ機会は充実し、その知識は幅広い層に普及していきました。林羅山の子孫が代々「^{だいがくのかみ}大学頭」の職を継ぎ、武家に向けた教育を行う一方、民衆の中からも独自に儒教を研究し、精力的に学びを深めようとする者が次々と現れたことも江戸時代の大きな特徴といえます。儒教が民衆に浸透したことで、鈴木春信(1725?~1770)が五常をテーマとして制作した錦絵や、歌川国芳(1797~1861)による《^{にじゅうしこうどうじかがみ}二十四孝童子鑑》など、多くの人々が手に取る浮世絵の題材として儒教思想が反映されていきました。

また、儒教思想は曲亭馬琴(1767~1848)による『南総里見八犬伝』などの読本や、「仮名手本忠臣蔵」、「本朝二十四孝」などといった歌舞伎の演目にも摂取され、これらが新たな美術作品の題材ともなりました。さらに身の回りの工芸品には、二十四孝の一つ、^{もうそう}孟宗の物語に由来する雪・筍などが、孝を暗示する図像として親しまれるようになり、生活の中に浸透していったのです。

この章では、儒教の知識に基づいてつくられ、広く民衆に受容された浮世絵や染織・漆工などといった、近世以降の日本の美術作品をご紹介します。



五常義 鈴木春信 一枚
明和4年(1767) サントリー美術館
【展示期間:12/25~1/26】



雪中筍採模様筒描幕(丸に橘紋入) 一枚
明治~昭和時代 19~20世紀
サントリー美術館 【展示期間:11/27~12/23】

主な出品作品

- ・五常義 鈴木春信 一枚 明和4年(1767) サントリー美術館
- ・二十四孝童子鑑 ^{おうほう}王褒 歌川国芳
一枚 天保14~弘化元年(1843~44)頃 平木浮世絵財団
- ・おさなあそび廿四孝 ^{ろうらいし}老萊子 北尾重政
一枚 安永~天明年間(1772~89) 公文教育研究会
- ・七伊呂波拾遺 二十四孝竹の子 三代歌川豊国
一枚 安政3年(1856) 東京都江戸東京博物館
- ・雪中筍採模様筒描幕(丸に橘紋入) ^{せっちゅうたけのことり も ようつつがきまく}
一枚 明治~昭和時代 19~20世紀 サントリー美術館

儒教のかたち こころの鑑——日本美術に見る儒教——

- 会 期** 2024年11月27日(水)～2025年1月26日(日)
※作品保護のため、会期中展示替を行います
- 主 催** サントリー美術館、朝日新聞社
- 協 賛** 三井不動産、三井住友海上火災保険、サントリーホールディングス
- 会 場** サントリー美術館
東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階
交通機関(東京ミッドタウン [六本木] まで)
都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結
東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結
東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

基本情報

- 開館時間** 10時～18時
※金曜日および1月25日(土)は20時まで開館
※いずれも入館は閉館の30分前まで
- 休 館 日** 火曜日(1月21日は18時まで開館)、12月30日(月)～1月1日(水・祝)
- 入 館 料** ・当日券：一般1,700円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料
・前売券：一般1,500円、大学・高校生800円
※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱
※前売券の販売は2024年9月18日(水)から11月26日(火)まで
※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ
- 割 引** ・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引
・団体割引：20名様以上の団体は100円割引
※割引適用は一種類まで(他の割引との併用不可)

イベント情報

| 展覧会関連プログラム |

講演会「善を勧め悪を戒める—勸戒画の世界」

講師：水野裕史氏（筑波大学芸術系准教授）

日時：12月15日（日）14時～15時30分

会場：6階ホール

料金：700円（別途要入館料）

定員：95名

※当館ウェブサイトよりお申込みください。応募者多数の場合は抽選

| 呈茶席（お抹茶と季節のお菓子） |

日時：11月28日（木）、12月12日（木）・19日（木）、1月9日（木）・23日（木）

12時、13時、14時、15時にお点前を実施（お点前の時間以外は入室不可）

会場：6階茶室「玄鳥庵」

定員：各回12名／1日48名

呈茶券：1,200円（別途要入館料）

※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売（当日先着順・予約不可、お一人様2枚まで。混雑時は9時半より整理券配布）

詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。追加のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

お問い合わせ

一般お問い合わせ

TEL：03-3479-8600

美術館ウェブサイト

<https://www.suntory.co.jp/sma/>

広報画像のお申込み

<https://www.suntory.com/sma/press/exhibition/v94r7P/upload/jukyo0829.pdf>

報道関係のお問合せ

「儒教のかたち こころの鑑」広報事務局（株式会社TMオフィス内）

担当：馬場・永井・西坂

TEL：050-1807-2919

E-mail：jukyo@tm-office.co.jp

美術館への取材に関する
お問い合わせ

サントリー美術館 〔学芸〕大城 〔広報〕光田

E-mail：sma-pr@suntory.co.jp

以 上